

「日本も元気にする」 青年海外協力隊



青年海外協力隊をはじめとするJICAボランティアとして開発途上国の課題解決に取り組み、帰国したボランティアの人数が5万人を超えました。彼らは、2年間にわたる開発途上国でのボランティア活動を通して、異なる文化や生活、価値観に触れながら、広い視野や豊かなコミュニケーション能力、課題解決能力を磨いてきました。青年海外協力隊として赴いた国の課題の解決に取り組む中で、日本という国や自身を顧みながら人間として成長しました。帰国後、それぞれの生き方の中で、2年間の経験がどのように活かされているのか、帰国したボランティアのみなさんに聞いてみました。

>>> Interview 13

**ザンビアで培った
様々な力が活かされていると実感。**
三重県立看護大学
森本 裕也さん (三重県伊勢市在住)

ザンビアでは、ゆっくり進む時間、陽気な国民性、助け合いの精神、地域のつながり、宗教観など、日本とは違う価値観に触れることができました。日本の価値観がすべてではなく、むしろ開発途上国から学ぶことはたくさんあるということを知りました。また、現在の勤めている大学は、タイのマヒドン大学、スコットランドのグラスゴー大学と交換交流協定を結んでおり、日本の学生を海外に引率したり、海外の学生を日本の保健医療機関へ案内したりしています。その中で、ザンビアで培ったことでも生きていける生活力、英語力、異文化コミュニケーション力が活かしていると実感しています。



派遣国 ザンビア(公衆衛生)
派遣期間 2013.01~2015.01

>>> Interview 14



派遣国 セネガル(看護師)
派遣期間 2013.07~2015.07

**日本では当たり前なのが当たり前じゃない。
今までの固定観念から解放された。**

医療法人山下病院
杉村 由紀さん (三重県員弁郡東員町在住)

協力隊に参加して、派遣された2年間、日本にある沢山の物が当たり前なんだと知った。6歳になったらランドセルを持って、みんなが小学校に通う事、水道からは常にきれいな水が出てくる事、時間通りに電車が来ること。そのすべてが、たくさんの人の努力によって作られているものだと知って、帰国後はそれが本当にありがたい事だと感じるようになった。ただ、一方で、井戸に水汲みに行って、近所の人とおしゃべりしながらたくさん笑って、時刻表のない、いつ来るかわからないバスを、知らない人とおしゃべりしながら楽しく待つそんな世界があるんだと、知った。人と人の距離が近いから、仲良くすることも、大人同士本気で喧嘩する事もあって、喜怒哀楽が激しいけれど、助け合いながら、生きて楽しい国だってこの底から思い、日本に帰ってきた今も固定観念から少し、解放された気がします。

>>> Interview 15

**未知の環境での経験は、
今なお自信となっている。**
三重県
太田 治希さん (三重県松阪市在住)



派遣国 フィリピン(村落開発普及員)
派遣期間 2013.07~2015.03

青年海外協力隊の活動では、配属先から明確な指示や助言が得られず、農業協同組合の会計業務改善という課題だけが与えられた中で活動を展開しました。その中で試行錯誤を繰り返しながら最終的には一定の成果を上げることができ、結果として、未知の環境に放り込まれたときの適応力がつきました。帰国後、三重県職員として2年間、台湾南部の最大都市である高雄市で勤務しました。初代駐在員だったため、再び未知の環境での挑戦でしたが、三重県知事と高雄市長による国際交流促進覚書の締結にかかる事前交渉、三重県への教育旅行の誘致、高雄市が主催した国際会議の開催支援等多くの経験をする事ができ、フィリピンで培った粘り強さを活かすことができました。異文化の中で、苦労と失敗の後に一定の成果を上げた青年海外協力隊の経験は、三重県での勤務を再開した現在においても自信となっています。

>>> Interview 16

派遣国 ガーナ(獣医・衛生)
派遣期間 2013.07~2015.07

**異文化での生活を経験して、
それぞれの違いを強く意識するよう。**

株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング
杉野 吉治さん (三重県鈴鹿市出身)

自分が当たり前だと思っていたことが、相手にとって当たり前ではない。ということを経験して、それは電気・水など物質的なモノから、宗教・文化的なモノの考え方・知識など多岐に渡りました。帰国後は、海外だけでなく、実は日本人同士でも多様な考え方があるのだ。と、これまで以上に気づくことが多くなったと思います。協力隊の経験は、これまで以上に自分の考えに固執せず、お互いが気づけなかった視点を共有し、良い部分を引き出しながら目指す目標に到達しようという日々の生活や、仕事への姿勢に活かしていると思います。

>>> Interview 17

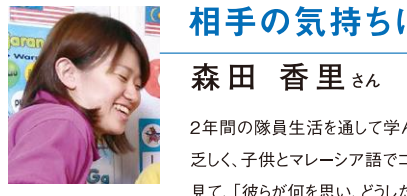


派遣国 モンゴル(理学療法士)
派遣期間 2014.07~2016.07

**多くの人に支えられた2年間。
今後も人とのつながりや支え合いを大切にしていきたい。**

村野 万伊加さん
日本人、モンゴル人問わず、多くの方々に支えられ2年間活動することができました。帰国した今でもその関係は途切れず、励ましあったり、助けていただくことは多いです。たくさんの素晴らしい縁のありがたさを実感しています。様々な文化、背景を持つ人々との出会い、日本の良さ、モンゴルの良さだけでなく、自分自身の長所・短所も再認識でき、こんな考えもあるんだと視野も広がりました。特に、モンゴルでは家族・親戚・地域住民の絆が強く、助け合いながら生活している同僚や患者さんの姿をみるのが何れもありません。地域の中でたくさん交流して支え合っていると、インフラや道具などが整っていない、大きな不便を感じず、しかも楽しく暮らせるのだと感銘を受けました。これからも周りの人々とのつながりに感謝し、大切にしていきたいと思っています。

>>> Interview 18



派遣国 マレーシア(障がい児者支援)
派遣期間 2015.06~2017.03

相手の気持ちに寄り添うという大切なことを再確認。

森田 香里さん
2年間の隊員生活を通して学んだことは「大切なことはどこも同じ」ということです。初めの頃は自分の語学力が乏しく、子供とマレーシア語でコミュニケーションをとることが難しかったです。しかし、その代わりに子供のことをよく見て、「彼らが何を思い、どうしたいと思っているのか」ということをいつも考えていました。だから、言葉では難しくても、彼らの行動を見て気持ちをくみ取るように心がけました。その結果、何かあったときに私を頼ってくれる子供が出てきました。このことから、大切なことは言葉よりも、相手の気持ちを考えることだと再確認できました。人生においては、自分の中にもう一つの引出しができたように感じます。何かを考えるときに日本的な考え方もありますが、一方でマレーシアなら別の価値観から物事を考えるようになりました。だから、自分の人生の節目節目での選択肢の幅が増えるのではないかと予想しています。

What's JICA Volunteer?

JICAボランティアとは…

JICAボランティアとは、「お互いの価値観・生活様式・文化を尊重し、直接ふれあい、交流しながら、貧困問題、環境問題などその国の社会の抱える問題に取り組み、経済や社会の発展に貢献することを目的としたボランティア」です。

- 事業の目的
 - 開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与
 - 異文化社会における相互理解の深化と共生
 - ボランティア経験の社会還元

よりよい明日を世界の人々と共有するため、日本が持つ技術や経験を伝え、開発途上国の人々に役立ててもらえます。

JICAボランティアが現地の人々を理解していくように、現地の方にも、JICAボランティアを通じて日本が理解され、共生・協働が行われるようになります。深化する相互理解と共生の営みにより持続可能な開発の実現を目指していきます。

■ 関係団体

- 三重県協力隊を育てる会 (TEL) 059-271-7040 (Email) takai@takainet.com
- 三重県青年海外協力隊OB会 (Facebook) <https://www.facebook.com/ktodhiambo/> (Email) takeo331@assp.jp
- 公益社団法人 青年海外協力協会 中部支部 (JOCA中部支部) 〒453-0015 愛知県名古屋市中村区椿町17-16 丸元ビル804号 (TEL) 052-459-7224 (FAX) 052-459-7225 (URL) <http://www.joca.or.jp/chubu>

■ JICAデスク

国際協力推進員 国際協力推進員は「地域のJICA窓口」として、JICA事業の広報及び啓発活動の推進、自治体等が行う国際協力事業との連携促進等の業務を行っています。三重県には青年海外協力隊経験者が配置されています。

JICA三重県デスク 〒514-0009 三重県津市羽所町700 アスト津3F(公財)三重県国際交流財団 (TEL) 059-223-8003 (FAX) 059-223-5007 (Email) jicadpd-desk-mieken@jica.go.jp

やまさき みち 山崎 三智 派遣国 タンザニア 派遣職種 小学校教諭

リサイクル適性 この印刷物は、印刷物の紙のリサイクルできます。 制作…2018年3月

独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター(JICA中部)

〒453-0872 名古屋市中村区平池町4丁目60-7 (TEL) 052-533-0220 (FAX) 052-564-3751 (URL) <https://www.jica.go.jp/chubu>